会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 平成３０年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回事業推進委員会 |
| 開催日時 | 2019年1月25日 15時〜17時 |
| 場所 | KBC学園本部　ミーティング室　 |
| 出席者 | 委員：大城圭永、岡村慎一、植上一希、福田稔、山根大介、高岡信吾、　　　泉田優請負業者：飯塚正成 |
| 議題等 | ①ICT活用WG進捗報告（福田、山根）* 成果報告会発表用資料をもとに説明。

調査事業* 調査事業は教務責任者101名、教員467名から回答があった。
* 動画教材を使った事業を行なっているケースはあまり多くない。
* 学生の学習意欲・効果向上が課題。
* 教材・コンテンツ製作は教員が担当している。
* 技術習得系授業の予習復習において利用されている。
* コンテンツ開発の予算が足りない。

実証授業* 内容が難しすぎる。
* けん玉がベースとなっているため自分たちの職業とのつながり部分がわかりにくい。
* 教員がICTの必要性を理解する内容を強化するべき
* 今回の受講者は情報リテラシー能力が高かったが、本来の目的とした情報リテラシー能力が低い教員を対象とした場合の作り込みを再度検討する。
* 研修開催は東京での開催ばかりでなく、e-learningの充実や地方開催についても検討する。
* 参加者のインストラクショナルデザインの理解のバラツキが課題である。
* 個人作成の指導案へのフィードバックなど、個人へのフィードバックをより重視すべき。
* 研修の目的をいくつかに分類する必要がある。
* 成果報告会の報告内容は、福田・山根にて修正し、当日発表する。

②学習評価研修WG進捗報告（植上）調査事業* KBC学園（観光系）、YICグループ（パティシエ）、麻生塾（美容）をベースに全21回の調査を行った。
* 専門学校においての評価の観点が少なかった。
* 職業教育において人間性教育との関係性を明らかにする必要がある。
* 調査の詳細については、２月８日までにポイントを取りまとめ２月１６日に最終決定する。
* 次年度は、基礎編にとどまらず、応用編にプログラム開発を実施する。
* 来年度は、企業に対するアンケートも必要ではないか

プロトタイプ研修* 概ね授業評価を知識的に学ぶことはできた。
* プログラムの目的は、専門学校教員として必要な「評価」についての認識と基礎的な知識を獲得させる。
* 対象者は、初年度から３、４年目の教員を対象とする。
* 関心意欲態度についての評価を盛り込む。
* 時間が短すぎた。
* 専門用語が多すぎた。
* ワークは好評。
* 自己紹介のワークに工夫が必要。
* 講師が説明をしきれない部分があった。
* 絶対評価に関する説明が少なかった。
* ２・３コマ目については興味を引く方向で再度検討が必要な部分がある。
* p４４のワークについて再度検討が必要である。
* ３時間目にワークを入れる必要がある。
* プロトタイプ版のアンケート集計を実施する。
* 目標に沿った評価をすることが評価の前提である。その部分は明確に意識づけをしたい。
* 応用編に向けての課題として、シラバスや人材育成を意識した部分を入れることが必要。
* 汎用性が高いテキストの作成をお願いしたい。
* 評価の重要性を意識する研修となっている。

③成果報告会での役割分担等* 司会：泉田
* 事業概要説明（大城）５分
* 研修体制づくり：

①教育コーチング（岡村）５分②情報公開（上里、笠原、亀本）２０分③研修支援ガイドブック（上里）５分* ICT研修はパワポを作成、動画（福田・山根）２０分
* 教育評価（植上、佐藤）２０分
* ２月３日までに資料を事務局に送っていただく。
* コーチング、情報公開セミナーは現状のパワーポイント資料

④今後のスケジュール・２月８日　成果報告会　14:50〜16:20 |

以上